●平成30年度卒業時アンケート調査分析結果

分析対象

所属学科専攻 と 学年 のクロス表

			学年		合計
			2	4	
所属学科専攻	人間生活学科	度数	0	42	42
	栄養学科	度数	0	78	78
	人間発達学専攻	度数	0	121	121
	人間基礎学専攻	度数	0	56	56
九州女子大学 合計		度数	0	297	297
所属学科専攻	子ども健康学科	度数	87	0	87
	専攻科	度数	8	0	8
九州女子短期大学 合計		度数	95	0	95

【分析対象の概要】

このアンケート調査は平成30年度の卒業年次学生（平成31年3月卒業予定）を対象として実施されたものであり、回答した学生の内訳は次の通りである。

●九州女子大学
- 家政学部
  - 人間生活学科　42名
  - 栄養学科　78名
- 人間科学部
  - 人間発達学科
    - 人間発達学専攻　121名
    - 人間基礎学専攻　56名
- 合　計　297名

●九州女子短期大学
- 子ども健康学科　87名
- 専攻科　8名
- 合　計　95名

Q85 学生生活の充実度（学習面）

所属学科専攻 と 学生生活の充実度　学習面 のクロス表

			学生生活の充実度　学習面				合計	平均値
			1. かなり充実している	2. まあまあといったところ	3. あまり充実していない	4. かなり不満がある		
所属学科専攻	人間生活学科	構成比	19.0%	69.0%	11.9%	0.0%	100.0%	1.93
	栄養学科	構成比	10.7%	72.0%	16.0%	1.3%	100.0%	2.08
	人間発達学専攻	構成比	38.3%	53.0%	8.7%	0.0%	100.0%	1.70
	人間基礎学専攻	構成比	25.9%	68.5%	5.6%	0.0%	100.0%	1.80
九州女子大学 合計		構成比	25.9%	63.3%	10.5%	0.3%	100.0%	1.85
所属学科専攻	子ども健康学科	構成比	12.6%	58.6%	25.3%	3.4%	100.0%	2.20
	専攻科	構成比	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1.75
九州女子短期大学 合計		構成比	13.7%	60.0%	23.2%	3.2%	100.0%	2.16

【調査分析結果】

学生生活における学習面の充実度を4点法で質問した。この質問では、平均値が低いほど充実が高く、平均値が高いほど充実度が低いことを示している。調査の結果、最も充実度が高かったのが人間発達学専攻（1.70）で、以下、専攻科（1.75）、人間基礎学専攻（1.80）、人間生活学科（1.93）、栄養学科（2.08）、子ども健康学科（2.20）の順であった。また、４点法による回答を充実度の高いグループと低いグループの２つに区分すると、専攻科（100.0%）、人間基礎学専攻（94.4%）、人間発達学専攻（91.3%）、人間生活学科（88.1%）、栄養学科（82.7%）、子ども健康学科（71.3%）の順で充実度の高い回答が多く、すべての学科専攻において、7割以上の卒業生が学生生活の学習面が充実していたと回答したことが示された。

Q87-1 専攻学科に対する満足度

所属学科専攻 と Q87-1　専攻学科に対する満足度 のクロス表

			Q87-1　専攻学科に対する満足度				合計	平均値
			1. 低い	2. やや低い	3. やや高い	4. 高い		
所属学科専攻	人間生活学科	構成比	2.4%	21.4%	57.1%	19.0%	100.0%	2.93
	栄養学科	構成比	2.7%	10.7%	74.7%	12.0%	100.0%	2.96
	人間発達学専攻	構成比	0.0%	4.3%	56.5%	39.1%	100.0%	3.35
	人間基礎学専攻	構成比	1.9%	13.0%	70.4%	14.8%	100.0%	2.98
九州女子大学 合計		構成比	1.4%	10.1%	64.0%	24.5%	100.0%	3.12
所属学科専攻	子ども健康学科	構成比	9.3%	20.9%	69.8%	0.0%	100.0%	2.60
	専攻科	構成比	12.5%	12.5%	37.5%	37.5%	100.0%	3.00
九州女子短期大学 合計		構成比	9.6%	20.2%	67.0%	3.2%	100.0%	2.64

【調査分析結果】

専攻学科に対する満足度を4点法で調査したところ、最も満足度が高かったのが人間発達学専攻（3.35）で、以下、専攻科（3.00）、人間基礎学専攻（2.98）、栄養学科（2.96）、人間生活学科（2.93）、子ども健康学科（2.60）と続いた。また、満足度の高いグループと低いグループの2つに区分してみると、すべての学科専攻において、およそ7割以上の卒業生が専攻学科に対して満足していることが示された。中でも、人間発達学専攻では専攻学科に対する満足度が特に高く、「やや高い」または「高い」と回答した割合を合わせると95.7%であった。

Q87-2 大学の雰囲気に対する満足度

所属学科専攻 と Q87-2　大学の雰囲気に対する満足度 のクロス表

			Q87-2　大学の雰囲気に対する満足度				合計	平均値
			1. 低い	2. やや低い	3. やや高い	4. 高い		
所属学科専攻	人間生活学科	構成比	2.4%	22.0%	48.8%	26.8%	100.0%	3.00
	栄養学科	構成比	1.3%	9.3%	73.3%	16.0%	100.0%	3.04
	人間発達学専攻	構成比	2.6%	17.4%	53.0%	27.0%	100.0%	3.04
	人間基礎学専攻	構成比	0.0%	20.4%	59.3%	20.4%	100.0%	3.00
九州女子大学 合計		構成比	1.8%	16.5%	58.9%	22.8%	100.0%	3.03
所属学科専攻	子ども健康学科	構成比	5.8%	24.4%	61.6%	8.1%	100.0%	2.72
	専攻科	構成比	12.5%	25.0%	37.5%	25.0%	100.0%	2.75
九州女子短期大学 合計		構成比	6.4%	24.5%	59.6%	9.6%	100.0%	2.72

【調査分析結果】

大学の雰囲気に対する満足度を調査したところ、平均値は栄養学科および人間発達学専攻（3.04）、人間生活学科および人間基礎学専攻（3.00）、専攻科（2.75）、子ども健康学科（2.72）の順で高かった。また、満足度の高いグループと低いグループに2分してみると、ほぼすべての学科専攻において、およそ7割以上の卒業生が大学の雰囲気に対して満足していることが分かった。栄養学科では特に満足度が高く、89.3%の卒業生が「やや高い」または「高い」と回答していた。

Q87-3 講義・カリキュラムに対する満足度

所属学科専攻 と Q87-3　講義・カリキュラムに対する満足度 のクロス表

			Q87-3　講義・カリキュラムに対する満足度				合計	平均値
			1. 低い	2. やや低い	3. やや高い	4. 高い		
所属学科専攻	人間生活学科	構成比	4.8%	26.2%	57.1%	11.9%	100.0%	2.76
	栄養学科	構成比	5.3%	28.0%	61.3%	5.3%	100.0%	2.67
	人間発達学専攻	構成比	0.9%	20.0%	58.3%	20.9%	100.0%	2.99
	人間基礎学専攻	構成比	1.9%	22.2%	66.7%	9.3%	100.0%	2.83
九州女子大学 合計		構成比	2.8%	23.4%	60.5%	13.3%	100.0%	2.84
所属学科専攻	子ども健康学科	構成比	6.9%	43.7%	47.1%	2.3%	100.0%	2.45
	専攻科	構成比	12.5%	25.0%	37.5%	25.0%	100.0%	2.75
九州女子短期大学 合計		構成比	7.4%	42.1%	46.3%	4.2%	100.0%	2.47

【調査分析結果】

講義・カリキュラムに対する満足度を尋ねた結果、平均値が最も高かったのは人間発達学専攻（2.99）で、以下、人間基礎学専攻（2.83）、人間生活学科（2.76）、専攻科（2.75）、栄養学科（2.67）、子ども健康学科（2.45）と続いた。また、人間生活学科、人間発達学専攻、人間基礎学専攻では、およそ7割以上の学生が、講義・カリキュラムに対する満足度が「やや高い」または「高い」と回答していた。

Q87-4 自己の成長と発達に対する満足度

所属学科専攻 と Q87-4 自己の成長と発達に対する満足度 のクロス表

			Q87-4 自己の成長と発達に対する満足度					平均値
			1. 低い	2. やや低い	3. やや高い	4. 高い	合計	
所属学科専攻	人間生活学科	構成比	2.4%	31.0%	52.4%	14.3%	100.0%	2.79
	栄養学科	構成比	4.0%	24.0%	64.0%	8.0%	100.0%	2.76
	人間発達学専攻	構成比	0.9%	12.2%	54.8%	32.2%	100.0%	3.18
	人間基礎学専攻	構成比	0.0%	24.1%	59.3%	16.7%	100.0%	2.93
九州女子大学 合計		構成比	1.7%	20.3%	57.7%	20.3%	100.0%	2.97
所属学科専攻	子ども健康学科	構成比	1.1%	33.3%	59.8%	5.7%	100.0%	2.70
	専攻科	構成比	12.5%	25.0%	25.0%	37.5%	100.0%	2.87
九州女子短期大学 合計		構成比	2.1%	32.6%	56.8%	8.4%	100.0%	2.72

【調査分析結果】

自己の成長と発達に対する満足度について調査したところ、平均値は人間発達学専攻（3.18）、人間基礎学専攻（2.93）、専攻科（2.87）、人間生活学科（2.79）、栄養学科（2.76）、子ども健康学科（2.70）の順で高かった。また、満足度が高いグループと低いグループに2分してみると、満足度が高いグループの割合は、人間発達学専攻（87.0%）、人間基礎学専攻（75.9%）、栄養学科（72.0%）、人間生活学科（66.7%）、子ども健康学科（65.5%）、専攻科（62.5%）の順であった。

Q87-5 教員との関係に対する満足度

所属学科専攻 と Q87-5 教員との関係に対する満足度 のクロス表

			Q87-5 教員との関係に対する満足度					平均値
			1. 低い	2. やや低い	3. やや高い	4. 高い	合計	
所属学科専攻	人間生活学科	構成比	9.5%	33.3%	50.0%	7.1%	100.0%	2.55
	栄養学科	構成比	2.7%	32.0%	52.0%	13.3%	100.0%	2.76
	人間発達学専攻	構成比	1.7%	13.0%	49.6%	35.7%	100.0%	3.19
	人間基礎学専攻	構成比	3.7%	20.4%	51.9%	24.1%	100.0%	2.96
九州女子大学 合計		構成比	3.5%	22.4%	50.7%	23.4%	100.0%	2.94
所属学科専攻	子ども健康学科	構成比	3.4%	39.1%	52.9%	4.6%	100.0%	2.59
	専攻科	構成比	12.5%	50.0%	12.5%	25.0%	100.0%	2.50
九州女子短期大学 合計		構成比	4.2%	40.0%	49.5%	6.3%	100.0%	2.58

【調査分析結果】

教員との関係に対する満足度を尋ねたところ、平均値が最も高かったのは人間発達学専攻（3.19）で、以下、人間基礎学専攻（2.96）、栄養学科（2.76）、子ども健康学科（2.59）、人間生活学科（2.55）、専攻科（2.50）と続いた。また、満足度の高いグループと低いグループに2分してみると、ほぼすべての学科専攻において、およそ6割以上の卒業生が教員との関係に対して満足していることが示された。特に人間発達学専攻では満足度が高く、85.2%の卒業生が「やや高い」または「高い」と回答していた。

Q87-6 職員との関係に対する満足度

所属学科専攻 と Q87-6 職員との関係に対する満足度 のクロス表

			Q87-6 職員との関係に対する満足度					平均値
			1. 低い	2. やや低い	3. やや高い	4. 高い	合計	
所属学科専攻	人間生活学科	構成比	9.5%	38.1%	45.2%	7.1%	100.0%	2.50
	栄養学科	構成比	9.3%	40.0%	44.0%	6.7%	100.0%	2.48
	人間発達学専攻	構成比	10.4%	27.8%	44.3%	17.4%	100.0%	2.69
	人間基礎学専攻	構成比	3.7%	31.5%	46.3%	18.5%	100.0%	2.80
九州女子大学 合計		構成比	8.7%	33.2%	44.8%	13.3%	100.0%	2.63
所属学科専攻	子ども健康学科	構成比	8.0%	39.1%	48.3%	4.6%	100.0%	2.49
	専攻科	構成比	12.5%	62.5%	0.0%	25.0%	100.0%	2.38
九州女子短期大学 合計		構成比	8.4%	41.1%	44.2%	6.3%	100.0%	2.48

【調査分析結果】

職員との関係に対する満足度を調査したところ、平均値は人間基礎学専攻（2.80）、人間発達学専攻（2.69）、人間生活学科（2.50）、子ども健康学科（2.49）、栄養学科（2.48）、専攻科（2.38）の順で高かった。また、満足度の高いグループと低いグループに2分してみると、ほぼすべての学科専攻において、半数以上の卒業生が職員との関係に対して満足していることが示された。

Q87-7 友人との関係に対する満足度

所属学科専攻 と Q87-7 友人との関係に対する満足度 のクロス表

			Q87-7 友人との関係に対する満足度				合計	平均値
			1. 低い	2. やや低い	3. やや高い	4. 高い		
所属学科専攻	人間生活学科	構成比	0.0%	9.5%	64.3%	26.2%	100.0%	3.17
	栄養学科	構成比	0.0%	6.7%	50.7%	42.7%	100.0%	3.36
	人間発達学専攻	構成比	0.0%	3.5%	32.5%	64.0%	100.0%	3.61
	人間基礎学専攻	構成比	0.0%	3.7%	44.4%	51.9%	100.0%	3.48
九州女子大学 合計		構成比	0.0%	5.3%	44.2%	50.5%	100.0%	3.45
所属学科専攻	子ども健康学科	構成比	0.0%	11.5%	48.3%	40.2%	100.0%	3.29
	専攻科	構成比	0.0%	0.0%	37.5%	62.5%	100.0%	3.63
九州女子短期大学 合計		構成比	0.0%	10.5%	47.4%	42.1%	100.0%	3.32

【調査分析結果】

友人との関係に対する満足度を尋ねたところ、平均値が最も高かったのは専攻科（3.63）であり、以下、人間発達学専攻（3.61）、人間基礎学専攻（3.48）、栄養学科（3.36）、子ども健康学科（3.29）、人間生活学科（3.17）と続いた。また、ほぼすべての学科専攻において、9割以上の卒業生が友人との関係に対する満足度は「やや高い」または「高い」と回答していた。

Q87-8 家族との関係に対する満足度

所属学科専攻 と Q87-8 家族との関係に対する満足度 のクロス表

			Q87-8 家族との関係に対する満足度				合計	平均値
			1. 低い	2. やや低い	3. やや高い	4. 高い		
所属学科専攻	人間生活学科	構成比	0.0%	19.0%	47.6%	33.3%	100.0%	3.14
	栄養学科	構成比	0.0%	9.3%	49.3%	41.3%	100.0%	3.32
	人間発達学専攻	構成比	0.0%	2.6%	34.8%	62.6%	100.0%	3.60
	人間基礎学専攻	構成比	0.0%	9.3%	40.7%	50.0%	100.0%	3.41
九州女子大学 合計		構成比	0.0%	8.0%	41.6%	50.3%	100.0%	3.42
所属学科専攻	子ども健康学科	構成比	2.3%	9.2%	46.0%	42.5%	100.0%	3.29
	専攻科	構成比	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	3.50
九州女子短期大学 合計		構成比	2.1%	8.4%	46.3%	43.2%	100.0%	3.31

【調査分析結果】

家族との関係に対する満足度を調べた結果、平均値は人間発達学専攻（3.60）、専攻科（3.50）、人間基礎学専攻（3.41）、栄養学科（3.32）、子ども健康学科（3.29）、人間生活学科（3.14）の順で高かった。また、満足度の高いグループと低いグループに2分してみると、すべての学科専攻において、家族との関係に対する満足度が高い卒業生は8割以上であることが示された。

平成30年度
Q.88 大学教育に関する要望（3つまで選択可）

		九州女子大学								九州女子短期大学			
		人間生活学科		栄養学科		人間発達学専攻		人間基礎学専攻		子ども健康学科		専攻科	
1	専門教育の充実	6	9.5%	26	19.3%	45	21.2%	17	16.8%	29	20.0%	3	33.3%
2	教養教育・人間教育の充実	10	15.9%	11	8.1%	22	10.4%	6	5.9%	7	4.8%	0	0.0%
3	少人数教育の実施、充実	6	9.5%	3	2.2%	14	6.6%	6	5.9%	9	6.2%	0	0.0%
4	教員の資質向上・充実	8	12.7%	27	20.0%	18	8.5%	5	5.0%	21	14.5%	2	22.2%
5	キャンパスの施設・設備の充実	8	12.7%	19	14.1%	38	17.9%	22	21.8%	17	11.7%	0	0.0%
6	情報処理教育の充実	2	3.2%	2	1.5%	4	1.9%	7	6.9%	5	3.4%	1	11.1%
7	各種資格取得に必要な教育の充実	5	7.9%	12	8.9%	15	7.1%	16	15.8%	10	6.9%	0	0.0%
8	就職に必要な教育、指導、支援の充実	8	12.7%	19	14.1%	31	14.6%	13	12.9%	25	17.2%	3	33.3%
9	国際交流の拡大と海外研修等の充実	5	7.9%	8	5.9%	6	2.8%	5	5.0%	5	3.4%	0	0.0%
10	オフィスアワーや教員と交流できる時間の拡大	2	3.2%	4	3.0%	7	3.3%	3	3.0%	3	2.1%	0	0.0%
11	その他	3	4.8%	4	3.0%	12	5.7%	1	1.0%	14	9.7%	0	0.0%
	合計	63	100%	135	100%	212	100%	101	100%	145	100%	9	100%

【調査分析結果】

卒業した学科専攻ごとに最も多かった要望は、人間生活学科が「教養教育・人間教育の充実」（学科専攻ごとの要望総数のうち15.9%）、栄養学科が「教員の資質向上・充実」（同20.0%）、人間発達学専攻が「専門教育の充実」（同21.2%）、人間基礎学専攻が「キャンパスの施設・設備の充実」（同21.8%）、子ども健康学科が「専門教育の充実」（同20.0%）、専攻科が「専門教育の充実」および「就職に必要な教育、指導、支援の充実」（同33.3%）であり、教育内容の改善に向けた方向性が示された。